



SVM設定のレプリケート

ONTAP 9

NetApp
December 20, 2024

目次

SVM設定のレプリケート	1
SnapMirror SVMレプリケーションのワークフロー	1
ボリュームをデスティネーションSVMに配置する際の基準	1
ONTAP SVMの設定全体をレプリケートする	2
LIFと関連ネットワーク設定をSVMレプリケーション対象から除外	5
ネットワーク、ネームサービス、およびその他の設定をSVMレプリケーション対象から除外する	8
ONTAP SVM DR関係に使用するアグリゲートを指定する	11
DR関係のONTAPデスティネーションSVM用のSMBサーバを作成する	11
ONTAP SVM DR関係からボリュームを除外する	13

SVM設定のレプリケート

SnapMirror SVMレプリケーションのワークフロー

SnapMirror SVMレプリケーションでは、デスティネーションSVMを作成し、レプリケーションジョブスケジュールを作成し、SnapMirror関係を作成して初期化します。

ニーズに最適なレプリケーションワークフローを決定する必要があります。

- "SVMの設定全体をレプリケートする"
- "LIFと関連ネットワーク設定をSVMレプリケーション対象から除外"
- "ネットワーク、ネームサービス、およびその他の設定をSVM設定から除外する"

ボリュームをデスティネーションSVMに配置する際の基準

ソースSVMからデスティネーションSVMにボリュームをレプリケートするときは、アグリゲートの選択基準を理解しておくことが重要です。

アグリゲートは次の基準に基づいて選択されます。

- ボリュームは常にルート以外のアグリゲートに配置されます。
- ルート以外のアグリゲートの中から、利用可能な空きスペースとホストしている既存のボリュームの数に基づいてアグリゲートが選択されます。

空きスペースが多くボリュームが少ないアグリゲートが優先されます。最も優先順位が高いアグリゲートが選択されます。

- FabricPoolアグリゲートのソースボリュームは、同じ階層化ポリシーを使用するデスティネーションのFabricPoolアグリゲートに配置されます。
- ソース SVM のボリュームが Flash Pool アグリゲートにある場合、デスティネーション SVM に Flash Pool アグリゲートがあり、そのアグリゲートに十分な空きスペースがあれば、そのアグリゲートにボリュームが配置されます。
- レプリケートするボリュームのオプションがに設定されている `volume` 場合 `-space-guarantee` は、空きスペースがボリュームサイズよりも大きいアグリゲートのみが考慮されます。
- ボリュームのサイズは、ソースボリュームのサイズに基づいて、レプリケーション時にデスティネーション SVM で自動的に拡張されます。

デスティネーション SVM のサイズを事前にリザーブする場合は、ボリュームのサイズを変更する必要があります。ソース SVM に基づいて、デスティネーション SVM でボリュームのサイズが自動的に縮小されることはありません。

ボリュームをアグリゲート間で移動する場合は、デスティネーションSVMでコマンドを使用できます `volume move`。

ONTAP SVMの設定全体をレプリケートする

SVMディザスタリカバリ (SVM DR) 関係を作成して、あるSVMの設定を別のSVMにレプリケートすることができます。プライマリサイトで災害が発生した場合は、デスティネーションSVMを簡単にアクティブ化できます。

開始する前に

ソースとデスティネーションのクラスタとSVMのピア関係が確立されている必要があります。詳細については、およびを参照して"[クラスタピア関係を作成します。](#)"[SVMのクラスタ間ピア関係を作成します](#)"ください。

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

タスクの内容

このワークフローでは、デフォルトポリシーまたはカスタムレプリケーションポリシーをすでに使用していることを前提としています。

9.1以降でONTAP 9は、mirror-vaultポリシーを使用すると、ソースとデスティネーションのSVMで異なるSnapshotポリシーを作成でき、デスティネーションのSnapshotコピーがソースのSnapshotコピーで上書きされることはありません。詳細については、を参照してください "[SnapMirror SVMレプリケーションの概要](#)"。

デスティネーションからこの手順を実行します。ソースStorage VMでSMBを設定している場合などに新しい保護ポリシーを作成する必要がある場合は、ポリシーを作成して* Identity preserve *オプションを使用する必要があります。詳細は、を参照してください "[カスタムのデータ保護ポリシーを作成する](#)"。

手順

このタスクは、System ManagerまたはONTAP CLIから実行できます。

System Manager

1. デスティネーションクラスタで、 * Protection > Relationships * をクリックします。
2. で、 [保護] をクリックし、 [Storage VM (DR)] * を選択します。
3. 保護ポリシーを選択します。カスタムの保護ポリシーを作成した場合は選択し、レプリケートするソースクラスタとStorage VMを選択します。新しいデスティネーションStorage VM名を入力して新しいデスティネーションStorage VMを作成することもできます。
4. 必要に応じて、デスティネーションの設定を変更してID保持を上書きし、ネットワークインターフェイスおよびプロトコルを含めるか除外するかを指定します。
5. [保存 (Save)] をクリックします。

CLI

1. デスティネーションSVMを作成します。

```
vserver create -vserver <SVM_name> -subtype dp-destination
```

SVM名は、ソースクラスタとデスティネーションクラスタで一意である必要があります。

次の例は、という名前のデスティネーションSVMを作成し `svm_backup` ます。

```
cluster_dst:> vserver create -vserver svm_backup -subtype dp-destination
```

2. デスティネーションクラスタから、コマンドを使用してSVMピア関係を作成し `vserver peer create` ます。

詳細については、を参照してください "[SVM のクラスタ間ピア関係を作成します](#)".

3. レプリケーションジョブスケジュールを作成します。

```
job schedule cron create -name <job_name> -month <month> -dayofweek <day_of_week> -day <day_of_month> -hour <hour> -minute <minute>
```

`-dayofweek`、および `-hour` では `month`、ジョブを毎月、曜日、および時間ごとに実行するように指定できます `all`。



SVM SnapMirror関係のFlexVolボリュームでサポートされる最小スケジュール (RPO) は15分です。SVM SnapMirror関係にあるFlexGroupボリュームに対してサポートされる最小スケジュール (RPO) は30分です。

次の例は、土曜日の午前3時に実行するという名前のジョブスケジュールを作成します my_weekly。

```
cluster_dst::> job schedule cron create -name my_weekly -dayofweek
saturday -hour 3 -minute 0
```

4. デスティネーションSVMまたはデスティネーションクラスタから、レプリケーション関係を作成します。

```
snapmirror create -source-path <SVM_name>: -destination-path
<SVM_name>: -type <DP|XDP> -schedule <schedule> -policy <policy>
-identity-preserve true
```



オプションと `-destination-path`` オプションで、SVM名のあとにコロン (:) を入力する必要があります ` `-source-path`。

次の例は、デフォルトのポリシーを使用してSnapMirror DR関係を作成し `MirrorAllSnapshots` ます。

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svm1: -destination
-path svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy
MirrorAllSnapshots -identity-preserve true
```

次の例は、デフォルトのポリシーを使用してユニファイドレプリケーション関係を作成し `MirrorAndVault` ます。

```
cluster_dst:> snapmirror create -source-path svm1: -destination-path
svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy MirrorAndVault
-identity-preserve true
```

ポリシータイプがのカスタムポリシーを作成した場合 `async-mirror`、次の例はSnapMirror DR関係を作成します。

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svm1: -destination
-path svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy my_mirrored
-identity-preserve true
```

ポリシータイプがのカスタムポリシーを作成した場合、 `mirror-vault` 次の例はユニファイドレプリケーション関係を作成します。

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svm1: -destination
-path svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy my_unified
-identity-preserve true
```

5. デスティネーションSVMを停止します。

```
vserver stop -vserver <SVM_name>
```

次の例は、svm_backupという名前のデスティネーションSVMを停止します。

```
cluster_dst::> vserver stop -vserver svm_backup
```

6. デスティネーションSVMまたはデスティネーションクラスタから、SVMレプリケーション関係を初期化します。

```
snapmirror initialize -source-path <SVM_name>: -destination-path  
<SVM_name>:
```



オプションと `-destination-path`` オプションで、SVM名のあとにコロン (:) を入力する必要があります ``-source-path``。

次の例は、ソースSVMとデスティネーションSVM `svm_backup` の間の関係を初期化し `svm1` ます。

```
cluster_dst::> snapmirror initialize -source-path svm1: -destination  
-path svm_backup:
```

LIFと関連ネットワーク設定をSVMレプリケーション対象から除外

ソースとデスティネーションのSVMが異なるサブネットにある場合は、コマンドのオプションを `snapmirror policy create` 使用して、LIFと関連ネットワークの設定をSVMレプリケーション対象から除外でき ``-discard-configs network`` ます。

開始する前に

ソースとデスティネーションのクラスタとSVMのピア関係が確立されている必要があります。

詳細については、およびを参照して["クラスタピア関係を作成します。" "SVMのクラスタ間ピア関係を作成します"](#)ください。

タスクの内容

```
`-identity-preserve` SVMレプリケーション関係を作成するときに、コマンドのオプションを  
`snapmirror create` に設定する必要があります `true`。
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

手順

1. デスティネーションSVMを作成します。

```
vserver create -vserver SVM -subtype dp-destination
```

SVM名は、ソースクラスタとデスティネーションクラスタで一意である必要があります。

次の例は、という名前のデスティネーションSVMを作成し `svm_backup` ます。

```
cluster_dst:> vserver create -vserver svm_backup -subtype dp-destination
```

2. デスティネーションクラスタから、コマンドを使用してSVMピア関係を作成し `vserver peer create` ます。

詳細については、を参照してください ["SVM のクラスタ間ピア関係を作成します"](#)。

3. ジョブスケジュールを作成します。

```
job schedule cron create -name job_name -month month -dayofweek day_of_week  
-day day_of_month -hour hour -minute minute
```

`-dayofweek`、および `-hour` では `month`、ジョブを毎月、曜日、および時間ごとに実行するように指定できます `all`。



SVM SnapMirror関係のFlexVolボリュームでサポートされる最小スケジュール (RPO) は15分です。SVM SnapMirror関係にあるFlexGroupボリュームに対してサポートされる最小スケジュール (RPO) は30分です。

次の例は、土曜日の午前3時に実行するという名前のジョブスケジュールを作成します `my_weekly`。

```
cluster_dst:>> job schedule cron create -name my_weekly -dayofweek  
"Saturday" -hour 3 -minute 0
```

4. カスタムレプリケーションポリシーを作成します。

```
snapmirror policy create -vserver SVM -policy policy -type async-  
mirror|vault|mirror-vault -comment comment -tries transfer_tries -transfer  
-priority low|normal -is-network-compression-enabled true|false -discard  
-configs network
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、LIFを除外するSnapMirror DR用のカスタムレプリケーションポリシーを作成します。


```
cluster_dst::> snapmirror policy create -vserver svml -policy
DR_exclude_LIFs -type async-mirror -discard-configs network
```

次の例は、LIFを除外するユニファイドレプリケーション用のカスタムレプリケーションポリシーを作成します。

```
cluster_dst::> snapmirror policy create -vserver svml -policy
unified_exclude_LIFs -type mirror-vault -discard-configs network
```



今後のフェイルオーバーとフェイルバックのシナリオに備えて、ソースクラスタに同じカスタムSnapMirrorポリシーを作成することを検討してください。

5. デスティネーションSVMまたはデスティネーションクラスタから次のコマンドを実行して、レプリケーション関係を作成します。

```
snapmirror create -source-path SVM: -destination-path SVM: -type DP|XDP
-schedule schedule -policy policy -identity-preserve true|false -discard
-configs true|false
```



オプションと `-destination-path`` オプションで、SVM名のあとにコロン (:) を入力する必要があります ` `-source-path`。以下の例を参照してください。

次の例は、LIFを除外するSnapMirror DR関係を作成します。

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svml: -destination-path
svm_backup: -type XDP -schedule my_weekly -policy DR_exclude_LIFs
-identity-preserve true
```

次の例は、LIFを除外するSnapMirrorユニファイドレプリケーション関係を作成します。

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svml: -destination-path
svm_backup: -type XDP -schedule my_weekly -policy unified_exclude_LIFs
-identity-preserve true -discard-configs true
```

6. デスティネーションSVMを停止します。

```
vserver stop
```

SVM name

次の例は、svm_backupという名前のデスティネーションSVMを停止します。

```
cluster_dst::> vserver stop -vserver svm_backup
```

7. デスティネーションSVMまたはデスティネーションクラスタから、レプリケーション関係を初期化します。

```
snapmirror initialize -source-path SVM: -destination-path SVM:
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、ソースとデスティネーションの `svm_backup` 間の関係を初期化し `svm1` ます。

```
cluster_dst::> snapmirror initialize -source-path svm1: -destination  
-path svm_backup:
```

終了後

災害発生時のデータアクセス用に、デスティネーションSVMでネットワークとプロトコルを設定する必要があります。

ネットワーク、ネームサービス、およびその他の設定をSVMレプリケーション対象から除外する

デスティネーションSVMとの競合や設定の違いを避けるために、ネットワーク、ネームサービス、およびその他の設定をSVMレプリケーション関係から除外することができます。

コマンドのオプションを `snapmirror create` 使用すると、SVMのボリュームとセキュリティ設定だけをレプリケートできます `-identity-preserve false`。一部のプロトコルとネームサービスの設定も保持されます。

タスクの内容

保持されるプロトコルとネームサービスの設定のリストについては、[を参照してください"SVM DR関係でレプリケートされる設定"](#)。

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

開始する前に

ソースとデスティネーションのクラスタとSVMのピア関係が確立されている必要があります。

詳細については、[およびを参照して"クラスタピア関係を作成します。" "SVMのクラスタ間ピア関係を作成します" ください。](#)

手順

1. デスティネーションSVMを作成します。

```
vserver create -vserver SVM -subtype dp-destination
```

SVM名は、ソースクラスタとデスティネーションクラスタで一意である必要があります。

次の例は、という名前のデスティネーションSVMを作成し `svm_backup` ます。

```
cluster_dst:> vserver create -vserver svm_backup -subtype dp-destination
```

2. デスティネーションクラスタから、コマンドを使用してSVMピア関係を作成し `vserver peer create` ます。

詳細については、を参照してください "[SVM のクラスタ間ピア関係を作成します](#)"。

3. レプリケーションジョブスケジュールを作成します。

```
job schedule cron create -name job_name -month month -dayofweek day_of_week  
-day day_of_month -hour hour -minute minute
```

`-dayofweek`、および `-hour` では `month`、ジョブを毎月、曜日、および時間ごとに実行するように指定できます `all`。



SVM SnapMirror関係のFlexVolボリュームでサポートされる最小スケジュール (RPO) は15分です。SVM SnapMirror関係にあるFlexGroupボリュームに対してサポートされる最小スケジュール (RPO) は30分です。

次の例は、土曜日の午前3時に実行するという名前のジョブスケジュールを作成します my_weekly。

```
cluster_dst::> job schedule cron create -name my_weekly -dayofweek  
"Saturday" -hour 3 -minute 0
```

4. ネットワーク、ネームサービス、およびその他の設定を除外してレプリケーション関係を作成します。

```
snapmirror create -source-path SVM: -destination-path SVM: -type DP|XDP  
-schedule schedule -policy policy -identity-preserve false
```



オプションと `-destination-path` オプションで、SVM名のあとにコロン (:) を入力する必要があります `-source-path`。以下の例を参照してください。このコマンドはデスティネーションSVMまたはデスティネーションクラスタから実行する必要があります。

次の例は、デフォルトのポリシーを使用して、SnapMirror DR関係を作成し `MirrorAllSnapshots` ます。この関係では、ネットワーク、ネームサービス、およびその他の設定がSVMレプリケーション対象から除外されます。

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svm1: -destination-path  
svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy MirrorAllSnapshots  
-identity-preserve false
```

次の例は、デフォルトのポリシーを使用して、ユニファイドレプリケーション関係を作成し `MirrorAndVault` ます。この関係から、ネットワーク、ネームサービス、およびその他の設定が除外されま
す。

```
cluster_dst:> snapmirror create svml: -destination-path svm_backup:  
-type XDP -schedule my_daily -policy MirrorAndVault -identity-preserve  
false
```

ポリシータイプがのカスタムポリシーを作成した場合 `async-mirror`、次の例はSnapMirror DR関係を作
成します。この関係では、ネットワーク、ネームサービス、およびその他の設定がSVMレプリケーション
対象から除外されます。

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svml: -destination-path  
svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy my_mirrored -identity  
-preserve false
```

ポリシータイプがのカスタムポリシーを作成した場合 `mirror-vault`、次の例はユニファイドレプリケ
ーション関係を作成します。この関係では、ネットワーク、ネームサービス、およびその他の設定がSVM
レプリケーション対象から除外されます。

```
cluster_dst::> snapmirror create -source-path svml: -destination-path  
svm_backup: -type XDP -schedule my_daily -policy my_unified -identity  
-preserve false
```

5. デスティネーションSVMを停止します。

```
vserver stop
```

SVM name

次の例は、`dvs1`という名前のデスティネーションSVMを停止します。

```
destination_cluster::> vserver stop -vserver dvs1
```

6. SMBを使用する場合は、SMBサーバも設定する必要があります。

を参照して ["SMB のみ：SMB サーバの作成"](#)

7. デスティネーションSVMまたはデスティネーションクラスタから、SVMレプリケーション関係を初期化し ます。

```
snapmirror initialize -source-path SVM_name: -destination-path SVM_name:
```

終了後

災害発生時のデータアクセス用に、デスティネーションSVMでネットワークとプロトコルを設定する必要が

あります。

ONTAP SVM DR関係に使用するアグリゲートを指定する

ディザスタリカバリSVMの作成後、コマンドでオプションを `vserver modify`` 使用して、SVM DRデスティネーションボリュームをホストするアグリゲートを制限できます ``aggr-list`。

ステップ

1. デスティネーションSVMを作成します。

```
vserver create -vserver SVM -subtype dp-destination
```

2. ディザスタリカバリSVMのaggr-listを変更して、ディザスタリカバリSVMのボリュームのホストに使用するアグリゲートを制限します。

```
cluster_dest::> vserver modify -vserver SVM -aggr-list <comma-separated-list>
```

DR関係のONTAPデスティネーションSVM用のSMBサーバを作成する

ソースSVMでSMB構成が使用されていて、をに `false`` 選択した場合は ``identity-preserve``、デスティネーションSVM用のSMBサーバを作成する必要があります。SnapMirror関係の初期化中に共有など、一部のSMB構成ではSMBサーバが必要です。

手順

1. コマンドを使用して、デスティネーションSVMを起動し ``vserver start`` ます。

```
destination_cluster::> vserver start -vserver dvs1  
[Job 30] Job succeeded: DONE
```

2. コマンドを使用して、`vserver show`` デスティネーションSVMの状態がであること、およびサブタイプがである ``dp-destination`` ことを確認します ``running`。

```
destination_cluster::> vserver show
```

Vserver	Type	Subtype	Admin State	Operational State	Root Volume
Aggregate					

dvs1	data	dp-destination	running	running	-

3. コマンドを使用して、LIFを作成し `network interface create` ます。

```
destination_cluster::>network interface create -vserver dvs1 -lif NAS1
-role data -data-protocol cifs -home-node destination_cluster-01 -home
-port a0a-101 -address 192.0.2.128 -netmask 255.255.255.128
```

4. コマンドを使用して、ルートを作成し `network route create` ます。

```
destination_cluster::>network route create -vserver dvs1 -destination
0.0.0.0/0
-gateway 192.0.2.1
```

"ネットワーク管理"

5. コマンドを使用して、DNSを設定し `vserver services dns create` ます。

```
destination_cluster::>vserver services dns create -domains
mydomain.example.com -vserver
dvs1 -name-servers 192.0.2.128 -state enabled
```

6. コマンドを使用して、優先ドメインコントローラを追加し `vserver cifs domain preferred-dc add` ます。

```
destination_cluster::>vserver cifs domain preferred-dc add -vserver dvs1
-preferred-dc
192.0.2.128 -domain mydomain.example.com
```

7. コマンドを使用して、SMBサーバを作成し `vserver cifs create` ます。

```
destination_cluster::>vserver cifs create -vserver dvs1 -domain
mydomain.example.com
-cifs-server CIFS1
```

8. コマンドを使用して、デスティネーションSVMを停止し `vserver stop` ます。

```
destination_cluster::> vserver stop -vserver dvs1
[Job 46] Job succeeded: DONE
```

ONTAP SVM DR関係からボリュームを除外する

デフォルトでは、ソースSVMのすべてのRWデータボリュームがレプリケートされます。保護する必要がないボリュームがソースSVMにある場合は、コマンドのオプションを `volume modify`を使用して、ボリュームをSVMレプリケーション対象から除外できます`-vserver-dr-protection unprotected。`

手順

1. SVMレプリケーション対象からボリュームを除外します。

```
volume modify -vserver SVM -volume volume -vserver-dr-protection unprotected
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、ボリュームをSVMレプリケーション対象から除外し`volA_src`ます。

```
cluster_src::> volume modify -vserver SVM1 -volume volA_src -vserver-dr  
-protection unprotected
```

最初に除外したボリュームをあとでSVMレプリケーション対象に含める場合は、次のコマンドを実行します。

```
volume modify -vserver SVM -volume volume -vserver-dr-protection protected
```

次の例は、ボリュームをSVMレプリケーション対象に追加し`volA_src`ます。

```
cluster_src::> volume modify -vserver SVM1 -volume volA_src -vserver-dr  
-protection protected
```

2. の説明に従って、SVMレプリケーション関係を作成して初期化します"[SVMの設定全体のレプリケート](#)"。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。